

学校教育目標	「チャレンジ! なかよし! 進んで学ぶ 東の子」 ○ 進んで学び続け、考えを深め豊かにする子どもを育てます。(知) ○ 自他の違いを認め合い、心豊かに生きる子どもを育てます。(徳) ○ 心も体も健康な生活を実践し、自他の生命を大切にすることを育てます(体) ○ 地域とのつながりを大切に、他者と協働して共に生きる子どもを育てます(公) ○ 持続可能な社会の実現に向けて行動し、多様な変化に柔軟に対応できる子どもを育てます。(開)				
	創立 53 周年	学校長 山本佐知子	副校長 藤田 明彦	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 5
学校概要	児童生徒数: 374 人 主な関係校: 高田中学校、高田小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	高田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
社会(地域)理解力・自己理解力 コミュニケーション 人間形成 社会(地域)参画 計画実行・問題解決力 自己調整	高田中学校 高田小学校 高田東小学校	【9年間で育てる子ども像】 ○ 自らすすんで学び続ける子 ○ 仲間と協力してよりよい社会の実現を目指す子 「社会と自分を知り、自分らしく生きようとする子どもの育成」をブロック研究テーマとした授業づくりの推進 ・独自教科「たかた科」で育成を目指す資質・能力の明確化と「全体計画」「学年カリキュラム」の作成と活用 ・「情報活用能力の育成」に向けた小中一貫教育の推進 ・小中学校長会、担当者会、全体会での子どもの姿をもとにした協議やICT活用を通じた小中一貫教育の推進

中期取組目標	「子ども一人ひとりの個性や多様性を尊重し、つながりを大切に教育」を目指します。 ○ 子どもたちが、主体的に学習に取り組む授業づくりを進めます。 ○ 子どもたちが、安心して自分を表現できる学級風土づくりを進めます。 ○ 子どもたちが、安全に、健康の保持増進と体力向上を目指して学ぶ健康教育を進めます。 ○ 子どもたちが、社会や将来とつながる学びを通して、自分の生き方を考える力を育む取組を推進します。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①単元や一単位時間のめあての確認と振り返りの時間を確保し、子どもが自分の学びや変容を実感し、次に生かして学びを進められるようにする。②重点研究テーマを「自分を見つめ、よりよく伸びようとする子どもの育成」とし、特別活動を中心に「友だちとの対話」力の向上、集団作りや話し合い活動を通じたよりよい他者とのかかわりを目指す。
徳 人権教育	①「あいさつ」を通して他者意識を高め、「自分も相手も大切にすること」につなげていく。そのために挨拶の実態を視覚的に確認できる活動を工夫し、児童の自己認識と実際の行動のズレを意識できるようにする。②子ども主体の計画によるペア学年や児童会活動を定期的に行い、他者理解や協調性を高めていく。
体 健康教育	児童けんこう委員会を中心とした活動は継続していく。体だけでなく心の健康との関連性についても意識して取り組むようにする。人権教育との連携を図ることも考えていく。休み時間のレクや朝のストレッチなど、心の安定や他者意識を高める運動を全校に周知できるようにする。
公開 自分づくり教育	①「たかた科」のカリキュラムの見直しや目指す姿を再確認することで、地域理解を深め、子どもが自ら地域社会に進んで働きかけようとする姿を目指す。また、併設型小・中学校として3校で連携し、9年間を見通した指導ができるようにする。②自分づくりパスポートのあり方・内容を再度構想し、児童が自分の成長をメタ認知できるようにする。
いじめへの対応	①生活アンケートや無記名式アンケートを用いながら、必要に応じてこども面談を実施する。横浜こども会議を年間を通じた取り組みとし、学級や代表委員会で話し合いの場を設ける。その際、地域の大人にも協力をしてもらい、意見を聞く機会をつくる。②未然防止の観点から、YPデータ等を用いて担任だけでなく級外職員やSC、SSWとも連携し多角的な視点で児童を見ることを大切にする。
人材育成・組織運営(働き方)	組織運営の効率化と人材育成の充実を図るため、会議の精選と重複の解消に取り組む。事前準備を徹底し、部会での協議を深めることで会議の質を高める。また、必要に応じて生成AIを利用してことで議事録を効率化し、記録と共有を円滑にする。これらの取組により、学びの機会確保と負担軽減を進め、組織全体の人材育成につなげていく。
特別支援教育	①定期的な職員打ち合わせで、担当学年が毎回学年の児童情報を共有する。緊急性の高いものは臨時の職員召集の上で共有する。児童指導ノートだけでなく、ヒアリングシートを活用して案件の記録に努める。②「担任や学級の友達がいる教室」を本来の児童の居場所とすることを原則としながらも、状況に応じて特別支援教室を柔軟に利用できるような環境を整える。
地域学校協働活動	①「たかた科」の学習が、どの学年でも持続可能で充実したものとなるようにするために、これまでの取組から材の系統を整理する。それをもとに各学年、年度当初の計画、年度末の修正を加え、足跡カリキュラムを残す。②外部機関や地域の教育プログラムを活用したり、たかた科の授業を充実させたりすることで、社会とのつながりや自分の役割に気付く学びを深める。
GIGAスクール構想	①機器の基礎的な使い方や授業に関して、情報教育全体計画に基づき、各学年で引き続き指導を続けていく。 ②生成AIの使い方や注意等を含めた使い方についても一貫した指導ができるよう、全体に向けて研修や勉強会を行い、現状のAIの特性、問題などの把握や職員の活用意識の向上を図る。
教育環境整備	①財務管理の最新情報を取り入れた研修を継続し、公金・準公金の適正処理を全職員で徹底する。また、教材教具の収納先を明確にし、有効活用とコスト削減に努める。②子どもが遊具や教具を大切に扱い、活動中のリスク想定や回避の意識を高めるため、授業計画段階で安全管理マニュアルを活用し、安全・安心に関する意識の向上を図る。